

# 平成31年産 飼料用米(ミズホチカラ)栽培ごよみ

JAふくおか嘉穂本所営農センター ☎24-7093  
 JAふくおか嘉穂嘉麻営農センター ☎57-4000  
 飯塚普及指導センター ☎23-4154

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!!

生産履歴は必ず記帳しましょう。

月	5			6			7			8			9			10			11													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中												
生育期間	は種の準備			は種			育苗			田植			活着期間			有効分けつ期			無効分けつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期間			成熟期	
水管理							間断灌水			中干し			間断灌水			浅水			間断灌水			落水(走り水)										
主な作業	種子消毒①			基肥 代箱田 か施植 き薬② (6/10 5/20)			除草剤処理③			溝切り 中干し (田植後30日目頃から軽く 中干しを開始する。 乾燥が速く時は、通し水 を流す。)			穂肥一回目④ (8/10頃)			穂肥二回目④ (8/20頃)			出穂期			※落水時期 収穫一週間前くらいに 落水をする。(水管理を 十分におこなないと 遅くまで落水期をのぼ すことはできない)			収穫							

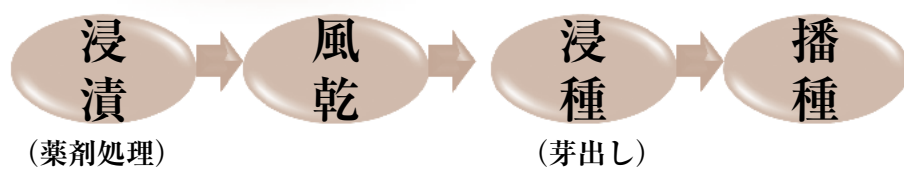
## 病害虫、雑草防除基準

### ○種子消毒-①

- ・種子は10a当たり3.0kg準備する。
- ・播種量：150g/箱(乾粉120g)

名称	希釈倍率	使用方法
テクリードCフロアブル	200倍	24時間浸漬
ベンレートT水和剤20		

24～48時間の薬剤浸漬後、風乾する。  
 ～パレット等を利用して行う～  
 (種粉の水切りは完全に行う。4～5時間以上)



### ○箱施薬-② 次のいずれか1つを選択

名称	使用量	使用時期	対象病害虫
防人箱粒剤	1箱あたり 50g	播種時 ～移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドクイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルスロトル箱粒剤 ※紋枯病に効果あり			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドクイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病

### ○除草剤使用基準-③

種類	名称	10a当たり使用量	使用時期
粒剤 (※田植同時処理可)	サラブレッドKAI1キログラム剤	1kg	田植時～8日 (ノビエ2.5葉期まで)
	ガンガン1キログラム剤		田植時～10日 (ノビエ3.0葉期まで)
フロアブル	サラブレッドKAIフロアブル	500ml	田植直後～8日 (ノビエ2.5葉期まで)
ジャンボ	サラブレッドKAIジャンボ	10パック	田植直後～8日 (ノビエ2.5葉期まで)
豆つぶ	ガンガン豆つぶ250	250g	田植後3～8日 (ノビエ2.5葉期まで)

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

### 注意

ミズホチカラは除草剤の成分「ベンゾビシクロン、メソトリオン及びテフリルトリオン」に対し、感受性が高く、薬害で枯れます。サラブレッドKAI、ガンガン以外は使用しないで下さい。

### ○稲こうじ病防除-④

名称	10a当たり使用量	使用時期
Zボルドー粉剤DL	3～4kg	出穂20日前 (「穂肥1回目」の時期)
ドイツボルドーA	希釈倍率2000倍、散布液量60～150ℓ	
モンガリット粒剤(紋枯病にも効果有)	4kg	

### ○補正防除

名称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫
ノンプラスバリダ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	いもち病、紋枯病
ダブルカットバリダフロアブル	希釈倍率1000倍 散布液量60～200ℓ	穂揃期まで	
コラトップ1キログラム剤12	1～1.5kg	葉いもち初発10日前～初発時 穂いもち出穂30日前～5日前まで	いもち病
コラトップジャンボ	10～13パック	葉いもち初発20日前～初発時 穂いもち出穂30日前～5日前まで	
ゴウケツモンスター粒剤	3kg	出穂30日前～5日前まで	いもち病、紋枯病、 稲こうじ病、ウンカ類
スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	ウンカ類対策 使用時期は トビイロウンカの幼虫期 毎年使用時期が ことなるので「稲作情報」を 参考にして下さい。
トレボン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	
トレボン乳剤	希釈倍率1000～2000倍 散布液量60～150ℓ	収穫14日前まで	
なげこみトレボン	水溶性容器10個 (500ml)	5葉期～ 収穫21日前まで	

※穂いもち病防除時期：「コラトップは、穂ばらみ期(出穂5日前)まで」「液剤・粉剤は出穂直前」に散布する事が重要です。

### ○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

(生貝の捕殺・卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬の耕起等)

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策	名称	10a当たり使用量	使用時期	備考
	スクミノン	1～4kg	移植後、但し 収穫60日前まで	水口、深いところ等タニシの 集まる所にスポイト処理も有効

### 田植え時期

- ・田植え時期を遅くすると、茎数がやや確保しにくくなるため、必ず6/10～6/20で植えますよう。
- ・極端な疎植は避けましょう。(50株/坪程度)

### 収穫目安

黄褐色粉比率80%  
 粉水分20%

適期収穫に努めましょう

### 注意

ミズホチカラの品種特性として、セジロウンカの被害がでやすいので、箱施薬は防人箱粒剤またはフルスロトル箱粒剤のいずれかを必ず使用して下さい。

### ○補正除草剤

名称	10a当たり使用量	対象雑草	使用時期
クリンチャーバスME液剤	1000ml/ 水70～100ℓ	ノビエ 広葉雑草	田植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで
フォローアップ1キログラム剤	1kg	カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫60日前まで
クリンチャーEW	100ml/ 水25～100ℓ	ノビエ	田植後20日～ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで
クリンチャー1キログラム剤	1kg		田植後7日～ノビエ4葉期 但し収穫30日前まで
2・4-Dアミン塩	80～120g/ 水70～100ℓ	水田雑草 (イネ科を除く)	有効分けつ終期～幼穂形成期前 (但し収穫60日前まで)
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500～700ml/ 水70～100ℓ	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日～55日 但し収穫50日前まで
バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3～4kg		田植後15日～55日 但し収穫60日前まで

### 注意

Zボルドー粉剤DL、ドイツボルドーAは、出穂10日前以降に散布すると穂に薬害が出ます!! 出穂10日前以降は散布しないで下さい。

稲こうじ病は、胞子が土壤に落ちて越冬します。

- ・出穂20～10日前に薬剤散布し、菌の感染を防ぎます(予防散布)。
- ・症状が見えてからの散布は効果がなく、薬害の危険があります。

### 注意

農薬散布の実施が無く、稲こうじ病が発生した場合、荷受け出来ません。必ず防除を実施して下さい!!

### ○施肥基準(全層施肥)

(kg/10a)

肥料名	基肥	穂肥1	穂肥2	成分量
ベスト444	55	—	—	N - 14.0 P - 7.7 K - 7.7
硫酸	—	15	15	
ハイエムコート30	45	—	—	N - 13.5 P - 2.25 K - 2.25

※基肥で側条施肥を行う場合、ベスト444の施肥量は、40kg/10a(全層施肥基肥N量の75%)。ハイエムコート30の施肥量は、40kg/10a(慣行全層施肥全N量の85%)。

※穂肥1回目の施肥時期は出穂前23～20日頃(幼穂1～2mm)です。

※穂肥2回目の施肥時期は1回目の「7～10日後」です。

※水稲育苗箱全量施肥を行う場合は、育苗箱まかせN400-120を1箱当たり1.2kg入れ(箱底施肥)、田植え時に10a当たり18箱使用で調整する。葉色が濃くても穂肥は基準通り施用して下さい。

肥料・農薬の注文は予約購入で経済効果を上げましょう。

農薬は、散布前に必ず農業ラベルを確認し、散布時には、天候に注意し、他の作物にかからないように散布しましょう。

1. このごよみは、稲の生育や病害虫の発生状況により多少変わることがありますので、JA等の情報に注意して下さい。
2. なお、不明な点は、普及指導センター、JAへお尋ね下さい。

JAふくおか嘉穂本所グリーンセンター ☎24-4200

JAふくおか嘉穂南部グリーンセンター ☎57-3915

平成31年1月作成